

ヘルスツーリズムの現状と今後のビジネスとしての展望

The Current Situation of Health Tourism and the Prospects as the Future Business

1K04B134-6

竹内 謙二

指導教員

主査 荒尾孝先生

副査 武藤泰明先生

序章

高齢化は社会保障制度の健全な運営に多大な影響を及ぼすと考えられており、国は国民の健康づくりに力を入れている。生活習慣病やストレス性の病気が注目されるようになり、国民の健康志向は以前にも増して高まっている。また、旅行への関心も高まり、現代社会において旅行の持つ役割は非常に大きいと考えられる。今後は健康と旅行が融合した新しい旅行形態として「ヘルスツーリズム」が注目を集めると言える。

第一章 ヘルスツーリズムの概念

「健康」は、主体的に生活環境の改善を図ろうとする態度・行動を意味するウェルネスの概念として考えることができる。一方の「ツーリズム」に関しては、楽しみを目的とする旅行という活動の中の一つとして、且つ旅行に関わりを持つ事象の総称である「観光」として捉えることにする。

ヘルスツーリズムは「ウェルネス」と「観光」活動が融合した新しい観光形態として認識することができる。また、エコ・スポーツツーリズムなどのあらゆる観光分野と融合しながら、健康を目的とする新しい旅行形態の一つであると言える。

第二章 国内外におけるヘルスツーリズムの過去・現在

健康に関わる旅行は国内外で、古くから注目を集めていた。欧州では療養を目的に温泉が利用され、ドイツのバーデン・バーデンを中心に発展してきた。

日本でも、古くから療養目的で温泉が利用されており、現在でも各地で展開されている。国内の旅行需要は高いものの、日本人の旅行は観光的要素が強いため、ヘルスツーリズムが十分に浸透していないように思われる。

第三章 ヘルスツーリズムの健康に与える効果

健康の維持・増進を主な目的とした新しい観光形態であるヘルスツーリズムには、目的地に訪れるといった単なる観光とは違った、身体面・精神面への影響があると言える。代表的なものには温泉と森林浴の2つがあると考えられる。温泉療法の効果に関する研究では、膝骨関節炎や線維症患者の身体機能およ

び心理面の改善が報告されており、森林浴の研究においても心理面と身体機能の改善が証明されている。

第四章 国内旅行業界における今後の市場価値

ヘルスツーリズムは人々の生活の質を向上させる場として、今後の可能性を予感させる旅行形態であると指摘されている。国民の健康志向は高まりつつあり、ヘルスツーリズムが発展するための基盤は整っていると考えられるが、マーケットとして今後も成長していくためには、サービスサプライヤー側の活動も重要になる。旅行会社や観光地などの地元自治体が連携して事業を展開することは、優れたサービスの考案、地域間の競争意識の高騰、および地域の活性に繋がると言える。

第五章 今後の課題と対策

課題は、消費者のヘルスツーリズムへの負のイメージを払拭させ、低認知・低評価の克服であると考えられる。提供されるサービス内容が観光的要素を強く含んでおり、参加者が「健康」を意識しなくなると考えられる。

対策としては、心身に与える効果を提示することに加え、参加者の体験談を紹介することが必要である。消費者・旅行会社・地元自治体の役割を明確にし、三者の連携が求められる。

終章

日常の関心事である「健康」を媒体とした旅行は、日常生活と旅行という非日常生活の関係を深いものにし、さらには質の高いライフスタイルの形成に貢献すると考えられる。少子高齢化が差し迫った課題となり、生活習慣病への関心が高まりつつある今後の日本社会において、ヘルスツーリズムは社会的に意義のあるものとして捉えることができる。

参考文献

- ・『ヘルスツーリズムの現状と展望』ヘルスツーリズム研究所
- ・『現代観光総論』前田 勇 学文社
- ・『世界の温泉地』山村順次 大明堂